

-----5月11日-----

今週のアウトルック (5/11 ~ 5/15)

先週のストレステストの結果発表による反応は、予想外に少ないものでした。事前にリークされてしまっていた部分が多く、サプライズ要因もなかったため、無難にイベントをこなしたという反応しかなかったようです。

ストレステストにより、もう少し高額の資本増強を求められる銀行が多いのではないかと考えていたのですが、金額的にも予想された範囲を超えるものはなかったように思います。

金曜日の夜に発表された米国雇用統計も予想よりも強い結果となりました。前回の修正と失業率8.9%という数字の重さが意識されたため、発表直後は乱高下となりましたが、方向的には円安方向で終わっています。

NYダウが上昇基調を再開して、リスク選考傾向が高まった場合、クロス円とともにドル円も上昇する傾向が強かったのですが、先週末の状況は少し違いクロス円は円安、ドル円は円高方向へ動きました。これはドルの換金売りによる一時的なものとの指摘もありましたが、少し通貨のバランスが変わってきているのかも知れません。今の状況で力関係が円<ドル<ユーロという図式からドル<円<ユーロという図式に変わってきているように感じられます。

ただ、リスク選考の場合の動きがユーロ、ポンド、豪ドルなどの高値警戒感から少し変わってきているようにも思います。今まで通りの動きとはならず、バランスが崩れやすい動きが今週も続きやすいようにも思います。

ドル円は99.5円以上の壁は、やはり少し厚いように思います。かと言って98以下まで売り込むには材料不足といった感じで、今週はレンジ内の動きに留まるのではないかと考えています。

ただ、日経平均が1万円台にのせてくるようなことがあれば、100円を突破する可能性はあるように思います。このあたりはリスク選考 = ドル高という図式を考えて良さそうです。

ユーロについては少し過熱感が強いように思います。ECBは先週の政策金利の発表で1%に金利を下げましたが、更なる金利引き下げの可能性を排除していません。また本年度、来年度ともにGDPの予想を引き下げています。要因的にはユーロが売られても何も不思議はないのです

が、リスク選考 = ユーロ高という図式は守られています。

ユーロドルは1.37付近まで上昇してきました。この水準は今の状況を考えますと過熱感が強いように思います。1.33あたりまでは調整してもおかしくないと考えています。

ユーロ円も135円を超える状況までには、力不足な感じもします。ただ、株価の上昇エネルギーがより一層強くなった場合にはユーロドル1.37、ユーロ円135円を一気に突破することも考えられますので、注意が必要だと思えます。

ポンドも過熱感が少し高いように思います。

ポンド円は151円に接近しています。4月の高値の151.6円あたりを超えてくるとまた状況が変わってしまうのかも知れませんが、基本的にはまだ150円と140円あたりのレンジがまだ継続すると考えています。ただこちらでも、株価の上昇エネルギーがより一層強くなった場合には152円超えということも考えられますので、注意が必要だと思えます。

ドル円は小幅な動き、ユーロ、ポンドはレンジの上限に近づいていることから、調整を考えているのですが、今週も株価の急激な変化や経済指標発表の良し悪しに大きく動かされてしまう可能性は高いと思います。

ドル円の100円突破、クロス円のレンジ上離れとの予想も多いですが、NYダウの9000ドル、日経平均の1万円突破という状況がなければ、その可能性はあまり高くないように考えています。

*** 免責事項 ***

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。